※掲載は企業名、個人名の50音順です。以下同

グローバル生産推進センター
保全マネジメント・支援室 主幹
石原 修さん

高岡工場車体部 次長
中山 等さん

高岡工場車体部第1ボデー課 組長
半野田 和幸さん

上郷工場・下山工場
製造支援部第2支援課 TL
山田 雄介さん

トヨタ自動車株式会社

自信を持って設備を視て 自らの知識で設備を守る。

2023年から自主保全士の資格取得を強く推進するトヨタ自動車。2年連続で過去最高を達成した「自主保全士育成の取り組み」とは。

2023年3月、トヨタ自動車の技能系のトップである河合満氏は、「設備に強いオペレーター育成の必要性」を社員に説いた。これを受けてトヨタ自動車では自主保全士資格取得に本腰を入れた。同社は生産工場10工場のほか、生産技術、技術部／研究所でも自主保全活動を展開していたが、各所をチェックしたところ「2016年をピークに年々、受験者数が減少していました。また拠点別で見ても受験者数のバラつきが大きく、特に車両工場で自主保全の根付きが弱いという状況でした」と石原修氏は説明する。

この課題に対し、トヨタ技能者養成所とタイアップ。ショップリーダー会議を活用し、受験の促進を依頼したという。さらに1級・2級の資格を持ち、かつ両者の成績優秀者でもある山田雄介氏にテキスト作成を依頼し、学習へのバックアップ体制も整備。これらの取り組みにより、2023年、2024年と2年連続で受験者数・合格者数ともに過去最高を更新する成果を上げている。

特に顕著な成果を挙げたのが高岡工場車体部だ。総勢1,500名の組織で、2022年まで低迷していた資格取得者数は2023年から急増。現在は在籍者の取得率34%に達している。中山等氏は「設備の老朽化、自働化設備の導入、また電池工場立ち上げが進む中、慢性的な保全員不足と保全員の育成期間の長さが課題でした。一方の製造メンバーは設備に手を出しづらいという意識が強く、領域拡大が急務だったのです」と話す。受験者増加へ向け、最初に行ったのが部の朝会での河合氏の“思い”を伝えること。さらに各課に自主保全士コーナーを設け、全社・工場・部門別のエントリー状況を週1回共有した。特に上長らが率先して受験したことは、部内への良き影響となった。

「全社トップの受験者数で、合格率も70%超という結果でした。資格取得により自信を持つ姿に触発され、資格取得に続く者も増えました」とは中山氏の弁。

一方、現場では「まず、“なぜ自主保全が必要なのか”を丁寧に説明し、製造部のマインドを変えることからスタートしました」と半野田和幸氏は述べる。中山氏および昨年度合格者による講演会を開き、課内に熱い想いを伝えると共に、勉強法の説明会を定期的に開催するなど、やる気を喚起。2023年には現場の工長・組長・TLが、自主保全が進んでいる他社を訪問し、さまざまな学びを得ると同時に大いに刺激を受けたことで、目指す方向も明確になっていった。これを受けて保全課が行っていた点検項目の一部だったスポットガン点検、シャント板点検などの点検を自主保全項目へ取り込み、また自分たちで行った改善事例も増えている。2年間でドア工程設備停止件数の低減傾向もみられ、効果は明らかになったという。